

2024年度 第2四半期 決算概要

2024年11月7日

沖電気工業株式会社

1. 2024年度 第2四半期累計業績

- ・連結合計は、第1四半期に続き対前年比で大幅な増収・増益。
- ・年間業績目標の達成に向けて、全体として概ね順調に推移。

2. 2024年度 通期業績予想

- ・足元の事業環境と業績動向を踏まえてセグメント別の業績予想の見直しを実施。
- ・連結合計は期初予想を据置き。

➤ 本日の説明内容のポイントです。

➤ 第2四半期累計の業績は、第1四半期に続いて連結ベースで対前年比大幅な増収・増益となりました。年間業績目標の達成に向けて、全体として概ね順調に推移しています。

➤ 通期の業績予想については、足元の事業環境と業績動向を踏まえて、セグメント別業績の見直しを行いました。が、連結合計では期初予想からの変更はありません。

■ 第1四半期に続き対前年比大幅な増収・増益。

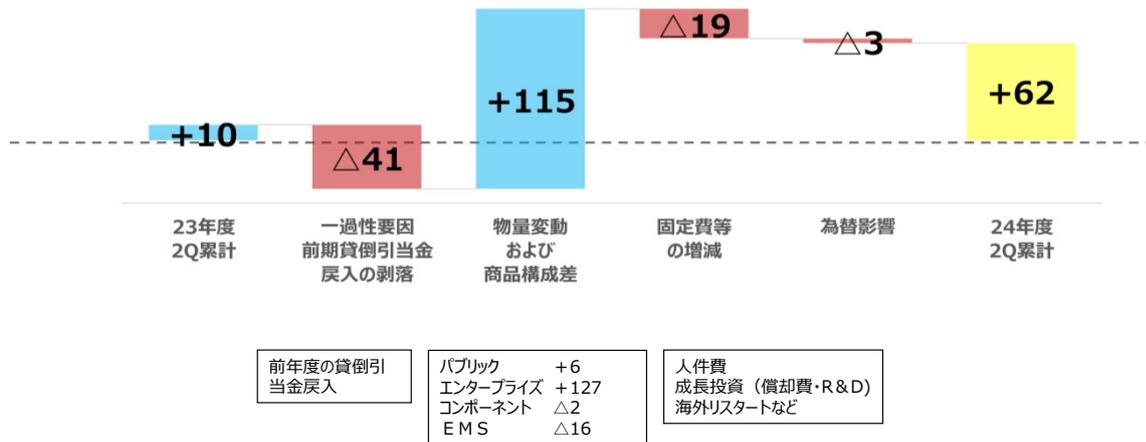
(単位：億円)	24年度 実績	23年度 実績	前年比
売上高	1,977	1,749	+228
営業利益	62	10	+52
経常利益	45	5	+40
(親会社株主に帰属する) 当期純利益	24	3	+21
USD平均レート(円)	152.6	141.0	+11.6
EUR平均レート(円)	165.9	153.4	+12.5

- 2024年度第2四半期累計は、売上高1,977億円、営業利益62億円、経常利益45億円、当期純利益は24億円となり、第1四半期に続いて対前年同期で増収増益となりました。
- 第1四半期同様に、前年度後半から継続している大型案件の着実な取り込みを主因に、売上高は前年同期対比で13%増加し、228億円の増収。
- 営業利益も52億円の増益となり、全体として年間業績目標の達成に向けて概ね順調に推移しています。
- 経常利益は、為替差損益の悪化などもありますが、対前年で40億円の増益。当期純利益も、21億円の増益で着地しました。

2024年度 第2四半期累計 営業利益の変動要因

- 前年度後半以降のエンタープライズソリューション事業の大型案件が引き続き堅調に推移するとともに、前年同期の部材コスト増の影響が剥落したこともあり、営業利益は大幅にプラス。

(単位：億円)



- 続いて、第2四半期累計の営業利益の変動要因です。
- 2023年度は「一過性の要因」、すなわち貸倒引当金の戻入41億円の影響があったことから、それを加味すると実質93億円の増益となります。
- 「物量変動および商品構成差」が、+115億円。
前年度後半以降の「エンタープライズソリューション事業」における「新紙幣対応案件」や「その他大型案件」等を順調に取り込んだことに加えて、前年同期における部材コスト増の影響が剥落したことなどもあり、大幅な利益改善となりました。
- 続いて、「固定費等の増減」が、△19億円。主に成長投資や、海外事業のリスタート費用等で増加しました。
- 「為替影響」は、全体として△3億円。主として、「パブリックソリューション事業」、「エンタープライズソリューション事業」のドル建ての仕入れにおける影響です。
- 以上が、営業利益の変動要因の説明です。

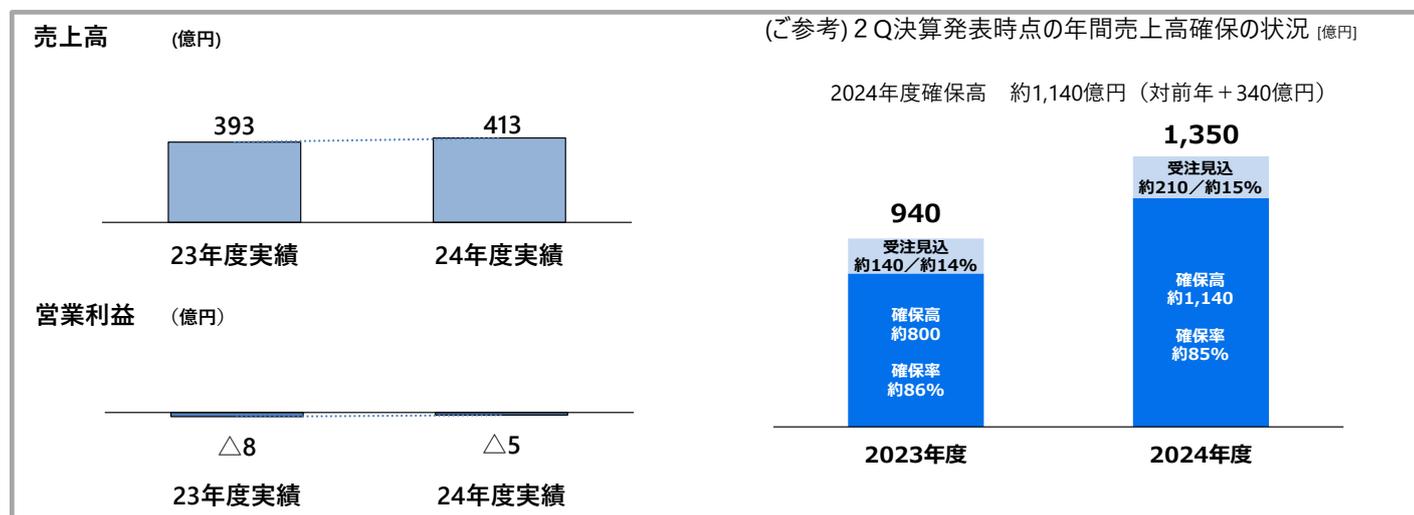
2024年度 第2四半期累計 セグメント別売上高/営業利益

(単位：億円)		24年度 実績	23年度 実績	前年比
パブリックソリューション	売上高	413	393	+20
	営業利益	△5	△8	+3
エンタープライズソリューション	売上高	871	639	+232
	営業利益	113	39	+74
コンポーネントプロダクツ	売上高	367	349	+18
	営業利益	9	5	+4
E M S	売上高	324	365	△41
	営業利益	△10	9	△19
その他	売上高	2	2	0
	営業利益	△8	△4	△4
消去・本社費	営業利益	△37	△29	△8
連結合計	売上高	1,977	1,749	+228
	営業利益	62	10	+52

- 次に、事業セグメント毎の売上高と営業利益です。
- 表の上から順に、
 - 「パブリックソリューション」は、売上高の増加などにより前年対比で営業利益が改善、
 - 「エンタープライズソリューション」は、前年度来の大型案件を主因に大幅な増収増益、
 - 「コンポーネントプロダクツ」は、費用の削減効果等もあり増収増益、
 - 「EMS」は、市況の影響が継続しており、減収。それに伴い営業利益も悪化しました。
- 「その他」および「消去・本社費」では、海外R&D拠点の開設を含む将来事業の創出に向けたR&Dなど、成長に不可欠な投資を継続して行っています。
- 事業セグメント毎の詳細は、次ページ以降でご説明します。

パブリックソリューション

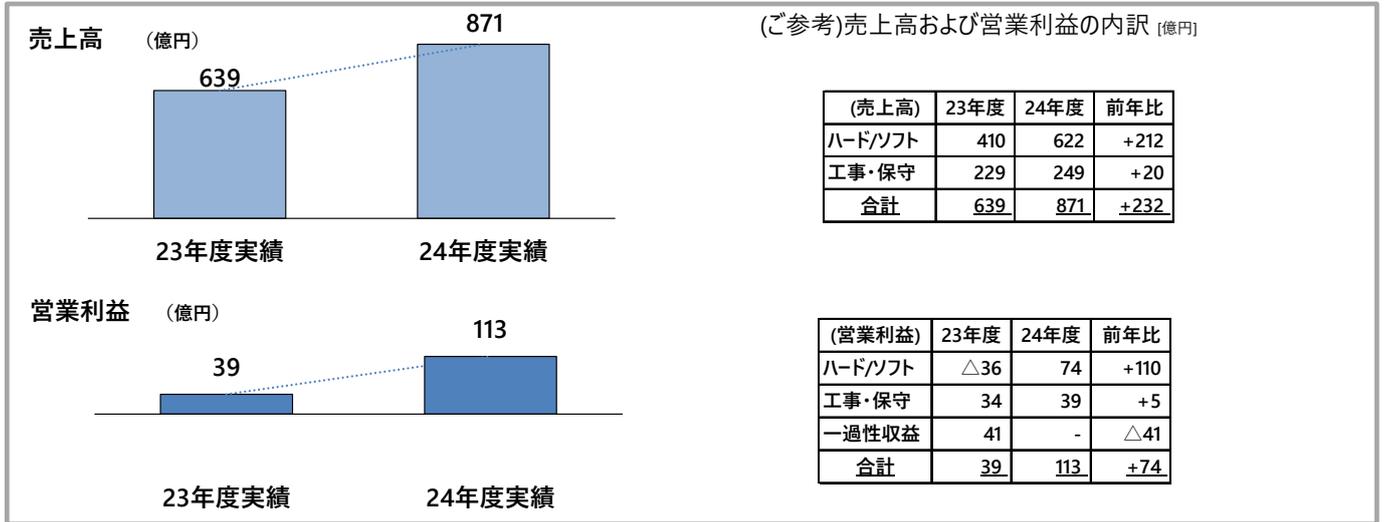
- 道路や防衛の増加により増収、営業利益も改善。ほぼ計画どおりの上期着地。
- 受注については年度予想売上の約85%を確保済み。



- まずは、「パブリックソリューション事業」です。
- 売上高は、対前年比で20億円増加して、413億円。
- 営業利益は、道路および防衛案件の増収などにより、3億円改善して△5億円です。
- 今年度は「パブリックソリューション事業」を伸ばす年と位置づけており、2024年度年間では、消防・防災・道路・防衛を中心に前年対比で売上が大きく伸長する計画ですが、足元における年間売上高の確保の状況は、右側のグラフに示しているとおりです。
- 今年度の年間売上高予想1,350億円に対して、その約85%にあたる約1,140億円を現時点で確保しています。計画値の達成に向けて、受注は第1四半期に続き堅調に推移しています。

エンタープライズソリューション

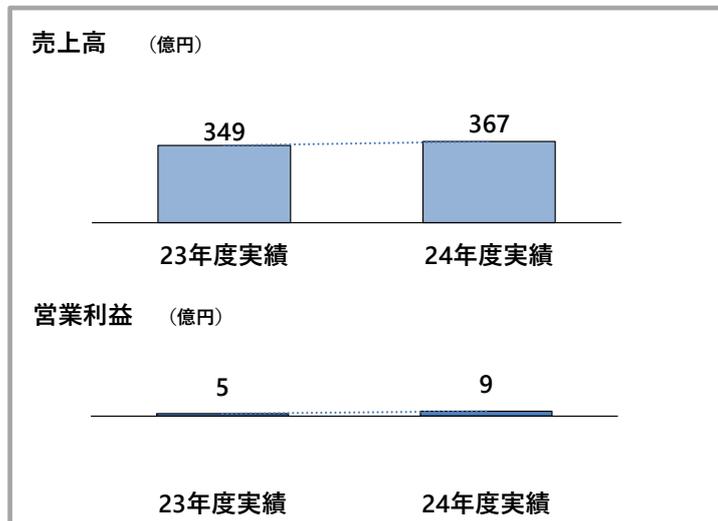
- 前年度後半からの大型案件の継続および前年同期の部材コスト増の影響の剥落などにより大幅な増収増益。



- 続いて、「エンタープライズソリューション事業」です。
- 売上高は、前年対比で232億円増加して、871億円。営業利益も、前年対比74億円増の113億円です。
- 前年度後半から注力してきた「新紙幣対応案件」や「その他大型案件」等を着実に取り込みました。また、それに付随して、工事・保守事業も堅調に推移しています。
なお、下期以降も継続する大型案件もあり、生産はフル操業が続いています。
- 利益面でも、前年同期における部材コスト増の影響の剥落もあって、前年の一過性収益による影響を跳ね返し、第1四半期に続いて大幅な増益となりました。

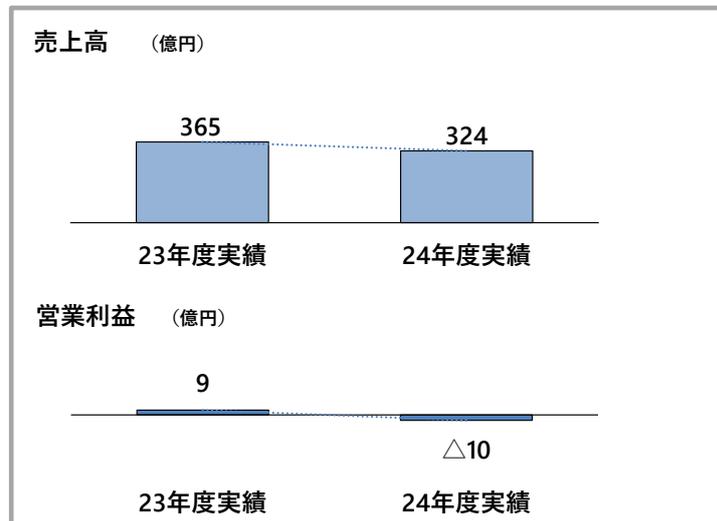
コンポーネントプロダクツ

- OEM案件の増加および為替影響により増収。
営業利益は費用削減などにより増益。



EMS

- 前年度後半以降の半導体市場やFA・ロボット市場の需要減の継続により減収、営業利益も悪化。



➤ 次に、「コンポーネントプロダクツ事業」です。

➤ 売上高は、円安の影響やOEM案件の増加もあり、前年対比18億円増の367億円。営業利益は、費用削減などにより4億円増加の9億円です。

➤ 最後に「EMS事業」です。

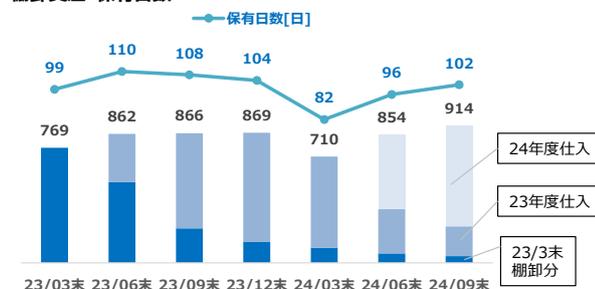
➤ 売上高は、前年対比41億円減の324億円。営業利益は、19億円悪化して△10億円です。

➤ 前年度後半以降の半導体市場と中国経済の低迷により、半導体製造装置用のプリント基板やFA・ロボット向けケーブルの需要の減少が続いており、第1四半期同様に減収減益となりました。

- 棚卸資産の前年度末の在庫は順調に減少。
- 自己資本比率は前年度末と同水準。

(単位：億円)	24年 9月	24年 3月	前年度末比
流動資産	2,292	2,397	△105
固定資産	1,857	1,837	+20
資産の部	4,149	4,234	△85
流動負債	1,928	1,884	+44
固定負債	830	937	△107
負債の部	2,758	2,821	△63
自己資本	1,390	1,412	△22
その他	1	1	+0
純資産	1,391	1,413	△22
負債及び純資産合計	4,149	4,234	△85
自己資本比率(%)	33.5	33.3	+0.2
DEレシオ(倍)	0.7	0.8	△0.1

棚卸資産・保有日数



- 次にバランスシートの概要です。
- 総資産は、前期末から85億円減少し、4,149億円。第1四半期同様に右側に棚卸資産の推移グラフを示しています。
- 運転資本については、従来以上にマネジメントを強化しておりますが、前年度末時点にあった在庫は順調に減少し、棚卸資産の保有日数は、前年同期対比で継続して改善しています。この時期は、今後の売上に向けた仕込を行っている段階です。
- 自己資本は1,390億円。自己資本比率は33.5%、DEレシオは0.7倍となりました。

- 営業キャッシュフローは利益改善により増加。
- フリー・キャッシュフロー良化に伴い借入金を削減。

(単位：億円)	24年度 実績	23年度 実績	前年比
I 営業キャッシュフロー	154	△10	+164
II 投資キャッシュフロー	△83	△102	+19
フリー・キャッシュフロー(I + II)	71	△112	+183
III 財務キャッシュフロー	△101	11	△112
固定資産取得額	75	97	△22
減価償却費	72	66	+6
(単位：億円)	24年9月末 実績	24年3月末 実績	期首比
現金および現金同等物の残高	309	344	△35

- キャッシュフローです。
- 営業キャッシュフローは、利益改善により、対前年比で164億円増の154億円。
- 投資キャッシュフローは、中期計画の方針に沿って、成長に不可欠な投資を優先して進めています。
- その結果、フリーキャッシュフローは71億円の増加となり、借入金の削減を実施しました。

2024年度 通期業績予想

- 足元の事業環境と業績動向を踏まえ、エンタープライズは増益修正、EMSは減益修正。
(連結合計は期初予想を据置き)

(単位：億円)		24年度 今回予想	24年度 前回予想	前回比	23年度 実績	前年比
パブリックソリューション	売上高	1,350	1,350	±0	940	+410
	営業利益	105	105	±0	44	+61
エンタープライズソリューション	売上高	1,780	1,700	+80	1,801	△21
	営業利益	150	125	+25	220	△70
コンポーネント	売上高	750	750	±0	734	+16
プロダクト	営業利益	15	15	±0	6	+9
EMS	売上高	720	800	△80	739	△19
	営業利益	10	25	△15	11	△1
その他	売上高	0	0	±0	4	△4
	営業利益	△18	△18	±0	△11	△7
消去・本社費	営業利益	△102	△92	△10	△83	△19
連結合計	売上高	4,600	4,600	±0	4,219	+381
	営業利益	160	160	±0	187	△27
	経常利益	145	145	±0	183	△38
	当期純利益	95	95	±0	256	△161
1株当たり配当金(円)		30	30	±0	30	±0

前提為替レート
USD : 148.1円
EUR : 162.6円

- 最後に、2024年度の通期業績予想です。
足元の事業環境と業績動向を踏まえて、セグメント別の業績予想の見直しを行いました。
連結合計については、期初予想からの変更はありません。
- 「エンタープライズソリューション事業」は順調な進捗から、売上・営業利益ともに上方修正。
その一方で、半導体市場等の影響もあり苦戦を強いられている「EMS事業」については、減収減益に修正しました。
「消去・本社費」には、当期の利益確保とのバランスを考慮しつつ、成長に必要な投資を追加で反映しています。
- 「エンタープライズソリューション」や「パブリックソリューション」は、昨年度来取り組んでいる注力領域における大型案件を着実に取り込み、業績目標の達成に向けて順調に推移しています。「パブリックソリューション」は消防・防災・道路・防衛を中心に対前年比では売上高410億円増、営業利益61億円増となる予想です。その一方で「EMS」については、引き続きその市況の回復に不透明感があることから、連結合計では期初予想を据え置くこととしました。
- 以上、第2四半期の決算説明とさせていただきます。

(補足) セグメント別売上高/営業利益 (四半期別推移)

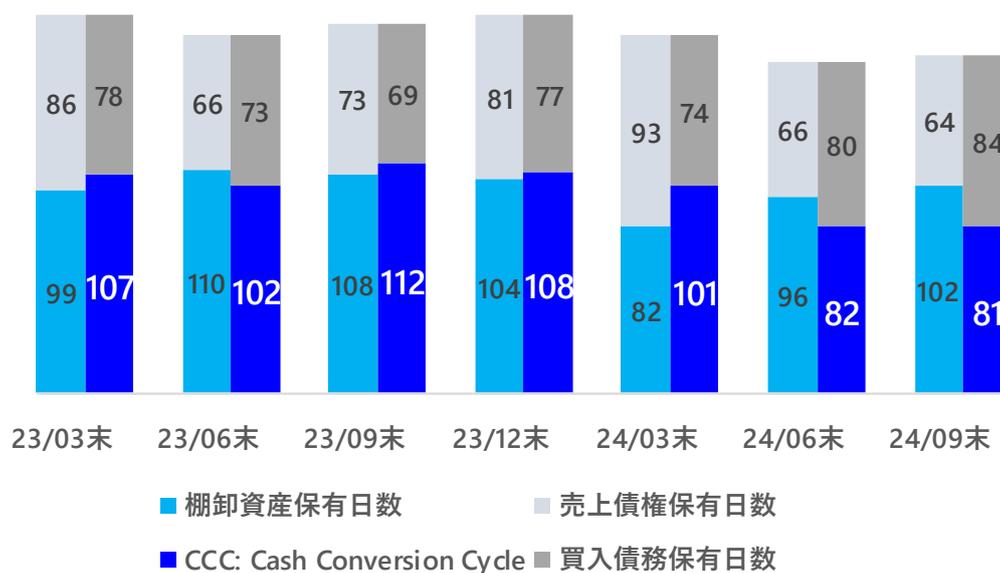
(単位：億円)		23年度					24年度		
		1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	2Q累
パブリックソリューション	売上高	193	200	245	301	940	191	222	413
	営業利益	△1	△7	14	39	44	△13	7	△5
エンタープライズソリューション	売上高	274	365	515	647	1,801	452	419	871
	営業利益	19	20	66	114	220	78	35	113
コンポーネントプロダクト	売上高	170	179	185	200	734	179	187	367
	営業利益	△8	13	△8	9	6	△1	11	9
E M S	売上高	177	188	171	203	739	156	168	324
	営業利益	6	3	△1	3	11	△6	△4	△10
その他の	売上高	1	1	1	1	4	1	1	2
	営業利益	△1	△3	△3	△4	△11	△4	△3	△8
消去・本社費	営業利益	△14	△15	△22	△32	△83	△16	△22	△37
連結合計	売上高	815	933	1,118	1,353	4,219	979	997	1,977
	営業利益	0	10	48	129	187	39	23	62

(補足) 各セグメントの主な製品およびサービス

パブリック ソリューション	<ul style="list-style-type: none">• 道路 (ETC/VICS) 、航空管制、防災、消防• 中央官庁業務システム、政府統計システム• 防衛システム (水中音響/情報)• 航空機器• インフラモニタリング• キャリアネットワーク、映像配信、5G・ローカル5G
エンタープライズ ソリューション	<ul style="list-style-type: none">• ATM、現金処理機• 営業店端末、予約発券端末、チェックイン端末• ATM監視・運用サービス• 金融営業店システム、事務集中システム• 鉄道発券システム、空港チェックインシステム• 製造システム (ERP/IoT)• 工事・保守サービス
コンポーネント プロダクツ	<ul style="list-style-type: none">• AIエッジコンピューター、センサー、IoT NW• PBX、ビジネスホン、コンタクトセンター• クラウドサービス• LEDプリンター
EMS	<ul style="list-style-type: none">• 設計・生産受託サービス• プリント配線板

(補足) 主要運転資本：保有日数の推移

単位：日



※本資料における業績予想および事業計画等は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断される一定の前提に基づいております。したがって、実際の業績は様々な要因により、これらと異なる可能性があることをご承知おきください。

※億円単位の数値の表示方法について：

各項目の数値は、それぞれの数値の億円未満を四捨五入して表示しています。
また増減については、億円単位の数値を元に計算しています。